USD - Underground Scriptwriter DAO -

第一期　ドラマ・シリーズ企画

極東ライジング

Main Writer
和泉(@izumiscript)

やなぎ(@ieitsu)
荻安理紗(@ogiarisa)

第一話「陽はまた昇る」パイロット版脚本

Copyright ©2023 USD（Underground Scriptwriter DAO）All rights reserved.

『極東ライジング』 ー　第一話「陽はまた昇る」 パイロット版脚本

1　　EXT. 徳島県某村、火葬場 - NIGHT　1942年（昭和17年）

野天の簡素な焼き場。
石積みの囲いの中、組まれた薪の上に置かれた座棺を強い炎が包んでいる。

その火の周りには数十人が集まっており、不思議な歌詞とメロディの御詠歌を歌っている。
泣きながら歌っている者、打ちひしがれた表情の者など、その様子から故人が相当に慕われれいた人物だったことが推察される。
中には子供たちもおり、「ちんぐうさーん」と泣き、別れを惜しんでいる。

2　　EXT. 同、火葬場 - SUNRISE

翌朝、拾骨のために石積みの囲いの周りに集まった村人たち。
燃料が足りなかったのか、遺骨はほぼ原型を残しており、特に頭蓋骨は崩れずにそのままの形で残っている。

その頭蓋骨を囲んで、村の男たちがなにやら話している。

村人A
骨がはっきり残っとるわ。松が足りんかったんとちゃうん？

村人B
(頭蓋骨についている歯を見て)
立派な歯じゃなあ。九州の人やったもんなぁ

村人C
(思いついたように)
...これ、みんなで分けて持とうか？...ちんぐうさん、忘れんように

村人D
...ほうじゃな、村の恩人やけんな

村人E
お子さんもまだこまいし、みんなであの家、守っていこうだ

村人A
ほれだけのことをしてもらったけんな

村人B
ほうじゃな、村の男らでこれ持って集まろうだ、毎年よう

「そうじゃそうじゃ」と言い合う男衆。それを遠巻きで見ている女衆と子供たち。

村人D
（後方の女衆に）
げんのう持ってきてー

村の子供がどこからか金槌を持ってきて、村人Dに手渡す。

村人Dは頭蓋骨の歯を金槌でコツコツと叩いて根本から外し、列に並んだ村人たちに１本ずつ渡していく。最初に受け取った村人Cの感極まった表情。

村人C
（涙を流しながら）
...忘れませんけん、あなたのことは、絶対に

列に並んだ村人は次々と差し出された歯を拝んで受け取り、両手で包むように大切そうに胸に当てて帰ってゆく。

その様子を不思議そうに見ている子供たちの顔が朝日に照らされている。

3 INT. 都内、高層ビル、カンファレンスセンターー、大ホール - EVENING

テロップ ー 現代 東京 ー

数百人の聴衆で埋まり、満席になっている大ホール。
入り口には講演のタイトルが書かれいる。

「日本の再興戦略、VCから見る可能性」
加納礼司氏 元財務官僚 / ベンチャー・キャピタリスト

ステージの上には後方中央のスクリーンを挟んで、ダークスーツに身を包んだ加納 礼司（35）と司会者がソファに座って対談している。

司会者
...え一先ほどのお話の続きではあるのですが、それでは具体的に日本経済を再生させるにはどうしたらよろしいでしょうか？

礼司
そうですね、さまざまな打ち手はあると思うのですが、私の仕事の見地から言えば、やはりベンチャー企業、スタートアップへの投資を増やす、というのが第一かと思います

後方のスクリーンを見ながら、手元のリモコンを押す礼司。

礼司 (CONT'D)
こちら、この説明をする際によく引き合いに出すデータなんですが...2021年のスタートアップへの投資金額、その国別比較です

(MORE)

礼司（CONT'D)
アメリカが36兆円、中国は6兆円、日本はどのくらいかわかりますか？

客席を見て聴衆の反応を伺っている礼司。

礼司（CONT'D)
...3兆円？1兆円？

礼司は再びリモコンを押すと、パネルに「日本　2948億円」と表示される

礼司（CONT'D)
実は2948億円なんです

会場全体から、あぁ...という声が漏れる。

司会者
...これじゃあ経済成長しろと言う方が難しいですね...そうするとやはり海外からもっと投資を呼び込む、という施策が重要なのでしょうか？

礼司
それも重要ですが、やはり彼らはとてもしたたかで、短期間での投資回収を狙ってきますから。
私は国内で眠っている資産、そういったものを、こうした次世代への長期投資に回すべきだと思ってます

司会者
国内ベンチャーへの長期投資...ですか？

礼司
はい、いわゆる新自由主義的なグローバル経済というのは、一部のお金持ちが自分たちの利益のために考え出したものですから、やはりすぐに結果を求めてしまう...そして結果が出ないとすぐに資金を引き上げると騒ぎ出す。

そうした状況では誰も思い切ったチャレンジなんて出来ない。彼らが安心して失敗できる環境、ムードを醸成することが必要なんです

客席では多くの聴衆が礼司の話に頷いている。

礼司（CONT'D)
よく「今だけ、カネだけ、自分だけ」と揶揄されていますが、それは非常に寒々しい、古来からの日本の価値観とは全くそぐわないものです。
「長期投資」と聞いたら３年、５年くらいをイメージされるかもしれないのですが、本来、投資の世界では最低で10年、欲を言えば30年という単位で見るべきものなんです

司会者
30年...しかしそこまでの資金力と持続性を持ったベンチャーキャピタルが国内に存在するかというと...

礼司
そうですね、私のところもまだ吹けば飛ぶような規模ですから、これはあくまでも理想論です...
まぁ、なので日本のどこかから資金を強奪してこようと思ってるんですけどね

悪戯っぽく笑う礼司と、大きな笑いに包まれる会場。

司会者
え一会場の皆様、本日は当講演にお越しいただき、誠にありがとうございました。
本日は元財務官僚のベンチャー・キャピタリスト、加納礼司さんにお越しいただきました。ありがとうございました

会場から沸き起こる大きな拍手。中には立ち上がって拍手している者も。
微笑みながらその拍手に応える礼司。

4 INT. 同、都内、高層ビル、カンファレンスセンター、大ホール - LATER

さきほどのホールで懇親会が行われている。ステージ近くに立ち、名刺交換をしている礼司。そこには長い列が出来ている。

礼司の後ろには浅野 雄大（42）が立っており、どんどん伸びていく列を困った表情で眺めている。

ステージ横の椅子に座り、足に載せたノートパソコンを叩きながら聴衆の様子を見ている高城 薫（31）。高城のノートパソコンの天板には「AKIRA」をはじめ、日本のアニメキャラのステッカーが貼ってある。

礼司と名刺交換するために並んでいる列がいよいよ長くなり、長く話し込んでいる先頭の客にそれとなく切り上げてくれるよう促す浅野。

浅野
すみません、そろそろ...

浅野の方を振り返り、いたずらっぽくアイコンタクトを送る礼司。
浅野は腕時計を指差して、「時間を意識しろ」とばかりの表情。

5 INT. 六本木、英国風パブ "EAST BEAST" - NIGHT

多国籍の客で賑わっている大箱のブリティッシュ・パブの店内。日本人の比率は半分ほど。

カウンターの前には行列が出来ており、支払いを済ませた客たちが飲み物を手に仲間のいるテーブルに戻っていく。

店内の一角にある小上がりのステージでは生バンドがパブ・ロックを演奏している。

客席では20代から40代くらいの男女がおり、音楽に合わせて頭を振る者、ステージ近くで踊る者、激しい議論をしている者、ナンパに興じる者など、さまざまなグループを形成している。

店内のモニターが設置された壁近くで若い日本人女性Aと巨漢の白人男性Aが顔を近づけ、親密そうに話している。

だが、日本人女性がスマホを取り出して時刻を確認し、帰ることを告げたのか、白人男性Aの表情が曇る。

帰ろうとして背を向けた日本人女性Aの腰に手を回し、引きつった作り笑いを浮かべながら自分の方に引き寄せる白人男性A。

※以下、英語で

日本人女性A
ちょっと、やめてよ！

白人男性A
もうちょっとだけ飲んでいこうよ、まだ電車あるだろ？

日本人女性A
...明日早いから帰るよ

白人男性A
いや、そりゃないって

帰ろうとする日本人女性Aの二の腕を強く掴む白人男性A

日本人女性A
いたっ...！離して！

近くで飲んでいた中年のグループの日本人男性Aが白人男性Aの肩を叩いて注意する。

日本人男性A
...ねぇねぇ！彼女、痛いって..！

他の男性に注意されたのが癪に触ったのか、怒りをぶつけるようにその日本人男性を勢いまかせに腕で突き飛ばす白人男性A。
壁に激突して頭を打ち、床に倒れ込む日本人男性Aと、その巻き添えをくらって倒れる日本人女性A。

白人男性A
ジャップがうるせぇんだよ！

周囲の女性客たちが悲鳴を上げるが、大音量の演奏にかき消される。
ステージでは、生バンドが気持ちよさそうに演奏を続けている。

怯えた目で白人男性Aを見上げる日本人女性A。周囲には人だかりができ始め、怒りと恥ずかしさでいよいよ引っ込みが付かなくなった白人男性Aは近くのテーブルにあったテキーラの瓶を掴んで一気飲みして、口に含んだ酒を座り込んでいる日本人女性Aにぶっかける。

ステージの近くで生バンドを見ていた有働 達也（34）が後方の騒ぎに気づき、さらに大きくなる人だかりをかき分けて進んでいく。

達也
(壁となっている客たちに)
Excuse me?

達也の後ろ姿が映し出される。肩まで伸びた長い髪と黒いシャツ。痩せてはいるが、広背筋がシャツに浮き上がっている。

人だかりをかきわけて、輪の中心にたどり着く達也。
テキーラ瓶をラッパ飲みしている白人男性Aに近づこうとすると、攻撃本能の塊と化した白人男性Aが達也に向けてテキーラ瓶を横に振り回してくる。

しかし、達也は軽く膝を曲げて重心を落とし、それを回避しつつ一歩踏み込み、合気道のような動きでそのまま白人男性Aを回転させ、床に転がしてしまう。

それを見ていた客たちの中からまるで闘牛場のような歓声が起こる。

達也は近くのテーブルの上にあったミネラルウォーターのペットボトルを手に取り、辺りを見回して持ち主を探し、「もらっていいか？」とジェスチャーをして許可を取り、「Thank You」とお礼を述べている。

何が起こったのか分からず、床にへたりこんでキョトンとしている白人男性A。

その眼前に手に持っていたミネラルウォーターのペットボトルを差し出す礼司。

達也 (CONT'D)
（英語で）お水でも飲んで、まずは落ち着きましょうよ

気を取り直し、立ち上がった白人男性Aが再びテキーラ瓶を振りかぶって達也に殴りかかってくるが、達也はそれをかわしつつ、白人男性Aの身体をちょっと押すと、前方にくるっと一回転し、頭が床に激突する。

沸き起こる大きな歓声。ちょうど生バンドの曲が終わり、ステージの近くでも大きな歓声が湧き上がる。
バンドへの歓声かと勘違いし、上機嫌な表情を浮かべるバンドのメンバー。

不本意に目立ってしまったことで、バツの悪そうな表情を浮かべる達也。

店員と思われるスタッフが数人やってきて、テキーラをかけられて泣いている日本人女性Aにタオルを差し出したり、床に倒れていた日本人男性Aのケアをしている。

店員の一人が達也に声をかける。

店員A
すみません、店長、気づくの遅れて...

達也
(微笑んで)
いや、いいよ

店員A
あと、さっき事務所で店長のこと探してました
よ

達也
あ、そう？わかった

白人男性Aの様子を確認し、立ち上がって事務所に向かおうとする達也。
取り組みが終わって花道を歩く力士のように、すれ違う客たちから肩を叩かれる。愛想笑いで会釈をしつつ、本当に困っているような表情で歩みを早める。

床に倒れ、気絶している白人男性Aを起き上がらせようする店員たち。
他の客たちはこの機会とばかりに白人男性Aの身体を蹴ったり踏んだりしている。
店員たちは半笑いでそれを窘めている。

6 INT. 同、"EAST BEAST"、事務所 - MOMENTS LATER

事務所内に複数設置された監視モニターを見ている店員B。
そこに、事務所のドアを開けて達也が入ってくる。

店員B
(監視モニターを見ながら)
さっきの暴れてた客、意識戻ったみたいですよ

達也
(デスクの上のペットボトルを飲み
ながら)
...でかかったなぁ、牛みたいだった

店員B
日本人になら、何してもいいと思ってるんです
かね？

達也
まぁ一部だよ、一部。で、どうした？

店員B
あ、そうそう！市井さんが、駐車場の車で待っ
てるそうです

達也
わかった、じゃあ後、よろしくな

店員B
はい

事務所のドア近くのコートハンガーから黒いレザーコートを手に取り、扉を開けて出ていく達也。

7 EXT. 都内、雑居ビル、屋上 - NIGHT

古びたマンションの谷間に建っている古い中層の雑居ビル。

その屋上に立ち、錆びた鉄柵にもたれかかりながら前方の高層ビルを眺めているダークスーツ姿の礼司。屋上へ通じるドアが開く音がして、そちらを振り返ると、暗闇の中から、黒いパンツに黒いシャツ、そして黒いレザーコートを着た達也が現れ、歩いてくる。

礼司
（黒ずくめの達也を見て）
やみにかーくれて いきるー♪
※「妖怪人間ベム」のオープニングテーマ

達也
（笑って）
うるせぇよ

達也は手に下げていた布のトートバッグからビールの小瓶を二本取り出し、栓を抜き、礼司に一本差し出している。

達也 (CONT'D)
（瓶を手渡しながら）
誰が妖怪人間だよ

笑いながら瓶ビールを手に取り、瓶をカチンと合わせて乾杯する二人。

達也 (CONT'D)
浅野さんは？

礼司
いや、なんか工具箱忘れたとか言って、ドンキ寄ってる

達也
緊張してんのかな？

礼司
（笑って）
いや、いつものことだろ

達也
お前は？

礼司
あ？緊張してるかってこと？

達也
そう

礼司
うーん、何回もシュミレーションしてきたから、あとは動くだけって感じかな...

達也
そうか...（と言って咳き込む）

礼司
（心配そうに）
大丈夫かよ？

達也
...まぁ、まだ持つだろ

礼司
ならいいけどさ...

静寂。

ビールを口に含み、雑居ビルの屋上から、前方の高層ビルを見上げる二人。

達也
...悪ぃな、引き込んじまって

礼司
（笑って）
そりゃお互い様だろ

達也
そっか（と再び咳き込む）

礼司
（ビールを一口飲んで）
これは、俺の"プラン"でもあるし、な...

達也
"俺たちのプラン"、だな

礼司
（軽く頷いて）
...後悔しないか？

達也
（笑って）
俺が？するわけねえだろ

静寂。

礼司
...じゃあ、そろそろ行くか

達也
おう、一発カマそうや

再び瓶をカチンと合わせ、残っているビールを一気飲みする二人。

8 EXT. 銀座８丁目、クラブ通り - NIGHT

高級クラブビルの1Fのエレベーターの扉が開き、ホステス（25）と岩丸 誠吾（72）と男性秘書（45）とママ（40）の四人が出てくる。岩丸は相当酔っているのか、どさくさ紛れにホステスAのお尻を触ったりしている。

引きつった表情のホステスAが後ろを振り向くと、口を一文字に結んだママが「我慢しなさいよ」とばかりに、目に力を込めて訴えてくる。

嫌悪の表情を顔面の筋肉で押し留め、作り笑いを浮かべて岩丸と腕を組みながら歩くホステスA。

岩丸
今週は地元やけんな、ほな来週日曜じゃ、日曜。車寄越すけん、な。近いじょ、千葉やけん

ホステスA
はーい。じゃあ友達と家で待ってまーす

岩丸
ママはまた今度で。来週はこいつだけ借りてくけん、な

ホステスのお尻を軽く叩き、冗談っぽく笑う岩丸。作り笑いがさらに硬直するホステスAの顔。

ママ
...この子、うちのエースですから。先生、お願いしますね。帰りも寄ってくださいね

岩丸
あー寄る寄る、な

男性秘書は一足先に通り出て、後方に停まっていたアルファードを手招きする。ゆっくりと店の前に近づき、横付けされる車。

後部座席のドアが自動で開き、秘書に促されて車内に入る岩丸。

男性秘書A
先生、どうぞ

岩丸
（ホステスAに）
手ぶらでええけんな、ゴルフセット、買っちゃるけん。手ぶらで来（き）ぃ、な

ホステスA
はーい

男性秘書
（後部座席に乗り込みながら）
じゃあ来週、よろしくお願いします。
おやすみなさーい

後部座席のドアが閉まり、発車するアルファード。

車が交差点を曲がるところまで手を振って見送った後、肩で大きなため息をつき、作り笑いを解くホステスAとママ。

ホステスA
...つらい、人生がつらいです...ママ、もう
田舎に帰っていいですか？

ママ
（笑って）
同じよ、どこに行っても。戻りましょ

ホステスA
あーあ...来週、嫌だなぁ...

ママがホステスAの背中をぽんぽんと慰めるように叩き、エレベーターに向かって歩いていく。

9 INT./EXT. 首都高を走るアルファード - LATER

運転席と後部席がパーテーションで仕切られている車内。
後部座席に座り、書類を確認している男性秘書と、スマホをいじっている岩丸。

岩丸
なあ、明日の飛行機、何時え？あとスコッティ
のパターってどこやっけ？こっちえ？徳島で？

男性秘書
明日は9時に羽田で...スコッティ...パター
ですよね？たしか地元の...車に...

男性秘書は強い睡魔に襲われ、それに抗おうと目をパチパチしている。

岩丸
ほな明日、忘れんように持って帰らんと、な。
あれ、今年調子ええけん

男性秘書
...向こうの車の...たしか...トランク...

睡魔に負け、やがて寝てしまう男性秘書。

岩丸
おい、先寝るなだ、先！おい！

岩丸、男性秘書の頬を叩く。さらに強めに叩くが起きないので諦める。

岩丸（CONT'D）
（呆れて）
...ったく、しょーたれがぁ

自身も急激な眠気に襲われる岩丸。あくびをしながらパーテーションのガラス窓から運転席に目をやると、バックミラーに防毒マスクのようなものを装着している浅野の姿が映っている。

訝しげな表情で岩丸が足元を見るとフロアマットから突き出た細い管のようなものからシューシュー音を立ててガスが噴出しているのが見える。

岩丸（CONT'D）
（浅野に）
...おーい！なんか出とるよ？！ちょ...

睡魔に負け、完全に眠りに落ちる岩丸。
浅野はバックミラー越しにそれを確認し、無表情で車を走らせている。

10 INT. 都内、改修工事中のオフィスビル - NIGHT

コンクリートがむき出しになった200坪ほどのフロア。
中央に置かれたパイプ椅子に手足を結束バンドで拘束され、頭部には奇妙な形状のヘッドギアが装着された岩丸が座らされている。

目を覚ます岩丸。

岩丸
（朦朧としながら手首のバンドを見て）
...なんなだこれ...

立ち上がろうとするが、足首も拘束されており、立ち上がれず、もがく岩丸。

岩丸（CONT'D）
...おい！！なんなだ、これ！！！？？誰かおるか？？？

その声に応えるように、岩丸の足元に置かれた小型スピーカーから人工的な音声が流れてくる。

人工音声
岩丸誠吾さん、はじめまして。1951年、徳島県生まれ、徳島１区選出、衆議院議員８期目。東京都渋谷区在住、家族構成、妻、息子二人。休日の過ごし方は...

岩丸
...おい！！

岩丸の声に反応したのか、人工音声が止まる。

岩丸（CONT'D）
...誰か知らんけど、ほどけや、これ。俺、誰か知っとるんだろ...えらいことになるぞ...

岩丸の前方には三脚がセットされスマホのカメラがこちらを向いている。
フロアの後方には改修用の資材で組んだ簡易的な机と椅子があり、机の上に置かれたノートパソコンを誰かが操作している。ノートパソコンの天板には「AKIRA」のキャラクターのステッカーが貼ってあるのが見える。

さらにその後方に立ち、その様子を眺めている二人の男の後ろ姿。

男の指がノートパソコンのトラックパッドをトンと叩く。

人工音声
お伝えし忘れましたが、現在のやり取りはいくつかのプラットフォームを通じて、配信されております。

岩丸
(ギョッとして前方のスマホを睨み)
...配信って...中継？！おい！！

人工音声
それでは質問を開始いたします。岩丸誠吾さん、あなたの頭部には最新鋭の脳波測定器が装着されています。これから質問することには全て「いいえ」でお答えください。

岩丸
(狼狽して)
...これ犯罪やろ？！俺は...

人工音声
嘘か本当かは、こちらのAIで判断します。誤魔化そうとしても無駄です。

岩丸
(激昂して)
...ちょっと待てぇ！

人工音声
Question.1、私の趣味はレース鳩の飼育である

岩丸
(スマホのカメラに向かって)
みなさん！...これは犯罪です！！私、岩丸は現在、不同意のままこちらに拉致連行され...

ノートパソコンの画面では"True"の円がハイライトで光っている。

人工音声
Question.2、ホステスや愛人と浮気を繰り返した私の家庭は冷え切っており、妻とも息子とも、ここ数年間、直接会話をしたことがない。

岩丸
...言わんぞ..おい！誰か！！わーーーーー！！！！

大声を出して質問を聞かないようにしようとする岩丸。その時、岩丸の指先に装着されたパルスオキシメーターから逆電流が流れ、悲鳴を上げる岩丸。

岩丸 (CONT'D)
ギャアーーー！！

人工音声
Question.3、私の一番好きな食べ物は"すだちそば"である

岩丸
（スマホのカメラを見て）
...拉致監禁、傷害、強要...

ノートパソコンの画面には心電図のような波形と"True"と"Lie"の円が表示されており、さきほどの岩丸への質問に対して"True"の円がハイライトで光っている。

人工音声
すだちそばがお好きなんですね？

岩丸
（激昂して）
え、ええかげんにせぇ！！！

11 INT. 都内、高級ホテルの高層階、ドレッシングルーム - NIGHT

スイートルームと思われる客室の広いドレッシングルーム。ドレッサー前の籠には女性のものと思われる服や下着が二組、また別の籠には男性のものと思われる服も置かれている。

隣のバスルームからは若い女性の嬌声と北見 広重（78）の声が聞こえてくる。

北見（V.O）
名前とかさ、君たち覚えられる？僕はもうね、無理だよ。でも、それも失礼だからね、だから名前を呼ぶときは一律にするんだよ、自分より年上だと思ったら「あなた」、年下だと思ったら「君」ってね。もう年上は少なくなっちゃったけどね

カメラがバスルームに入っていく。

12 INT. 同、高級ホテルの高層階、バスルーム - CONTINUOUS

大量の湯気の中で、バスチェアに座った北見が全裸のユウコ（25）とマリ（23）に両側から身体を洗われている。北見の身体はたるみ切っており、顔面には多くのシミが見受けられる。額の真ん中には大きくなった老人性のイボがある。

北見
でも君らの名前は覚えているよ、君がユウコで、君がマリ

ユウコ
えー！合ってるー！

マリ
嬉しいー！

女性たちは北見の全身にシャワーを浴びせ、泡を落としている。

北見
興味がある人の名前はね、やっぱり覚えるんだよ。脳がね、覚える努力をしようっていうかね...

話し続けている北見をよそに、ユウコとマリは目配せをして、いきなり「ガブリ」と北見の身体に本気で噛みつく。

肩や二の腕を噛まれ、軽くうめき声を上げる北見。身体に赤い歯型がついていく。ユウコとマリの顔が下半身の方に向かうにつれて、北見の呼吸が荒くなっていく。

13 INT. 同・高級ホテルの高層階、廊下 - LATER

エレベーターの扉が開き、男が二人出てくる。と同時に廊下の天井に設置された監視カメラが「ガシャ！」という音と共に限界まで上方向を向き、ギギギ...と音を立てる。

映し出される二人の男の足元のアップ。

二人組の男はスイートルームへ続く長い廊下を歩いていく。黒いレザーコートを着て先頭を歩く達也と、ダークスーツを着たプロレスラーのような巨躯の市井（30）の後ろ姿。市井がトートバッグから防毒マスクを二つ取り出し、一つを達也に渡す。歩きながらマスクを装着する二人。

スイートルームの前に到着し、達也が客室入り口にカードキーをかざすと、オートロックが解除される音がする。
それと同時にモンスターボールのような球を取り出して客室内に投げ込む達也。

「...なんだなんだ？！」「誰だオラァ！」という野太い声が室内から聞こえてくる。

急いでドアを閉め、廊下側から二人がかりでドアを押さえる達也と市井。
しばらくはドアを叩いたり蹴る音が続いていたが、それも弱まり、何も聞こえなくなる。

室内の抵抗が終わったことを確認し、客室内に入っていく達也。

だが、室内の男はまだ完全に昏睡していなかったのか、達也にパンチを入れ、廊下の反対側まで吹き飛ばされる達也。吹っ飛ぶ防毒マスク。
市井が慌てて室内に入っていき、室内からは激しく肉体を殴打する音が聞こえてくる。

長髪の男
（鼻を押さえて）
...いってぇ...

廊下に落ちた防毒マスクを再び装着し、客室内に入っていく達也。

14 INT. 都内、改修工事中のオフィスビル - LATER

果てしなく続く尋問に疲れたのか、項垂れたまま朦朧としている岩丸。抵抗することを諦めたのか、人工音声の質問に対して素直に「いいえ」と返答している。

人工音声
Question.121、空を飛ぶ夢を見る。

岩丸
...いいえ

人工音声
Question.122、肉の中では羊肉が一番好きだ。

岩丸
...いいえ

人口音声
Question.123、地元に対する郷土愛はなく、ただの集票地域として見ている。

岩丸
(はっとしたように)
...い、いいえ！地元のことは常に...

人工音声
(それを無視して)
Question.124、地元の選挙区の人間は無教養のバカばっかりだ

岩丸
...おい！...そんなことは、ありません！

ノートパソコンの画面では"True"の円がハイライトで光っている。

人工音声
Question.125、国会審議前日の夜に質問通告をして、官僚を困らせるのが好きだ

岩丸
...いいえ！

人工音声
Question.126、東大卒の官僚に無理難題を押し付け、泣きそうになっているのを見るのが好きだ

岩丸
...いいえ...

人工音声
Question.127、国会議員の席に固執するのは、人から頭を下げられること、議員報酬と議員特権だけが目的だ

岩丸
...いいえ...く...

ノートパソコンの画面では"True"の円がハイライトで光っている。

人工音声
Question.128、日本の将来について、本気で考えている

岩丸
...くくく...

人工音声
Question.129、日本も地元も自分の子供や孫たちも、将来どうなろうと知ったことではない

自分が情けなくなったのか、項垂れたまま静かに泣き出す岩丸。

岩丸
うぅぅ...

フロアの後方に立っていた礼司が岩丸の方に向かって歩き出す。

それに気付き、ぎょっとして礼司に声をかけようとする浅野。
だが、礼司は軽く手を挙げ、大丈夫だというようなジェスチャーを送り、岩丸に近づいていく。

シクシク泣いている岩丸の後ろに立ち、その両肩にゆっくり手を置く礼司。

礼司
...先生、意地悪な質問が続いてすいませんね。もうすぐ終了です。そうしたら岩丸先生を解放しますから...

岩丸
(鼻水をすすりながら)
...なんなだ...お前らは...

礼司
ただのドッキリですよ...あともう少しですから、お付き合いください

岩丸
...テレビ？...テレビの...中継...？

口元に笑みを浮かべたまま片手を挙げ、高城に尋問の続行を促す礼司。

人工音声
Question.130、私は四国の、とある秘密資金管理団体のメンバーである

静寂。

項垂れていた岩丸の毛穴から玉のような汗が浮き出し、滴となって床に落ちる。

岩丸
...いいえ...何やそれ？（笑って）...小説？...あ！よく詐欺のネタになってるアレ？

岩丸がゴクっと唾を飲み込む音がフロアに小さく響く

人工音声
Question.131、その秘密資金管理団体の名前は「ちんぐう会」である

岩丸
（青ざめて）
...いや、知らん...知りません！聞いたことない...

岩丸の身体から汗がコンクリートの床にしたたり落ちている。

人工音声
Question.132、その「ちんぐう会」の会合に参加するために必要なのは、ICチップを埋め込んだ、創設者の遺体の一部である

静寂。

岩丸
（前方のスマホを睨んで）
...中継しとるとか、ウソやろ？

礼司
（笑って）
ハハハ、ばれましたか

岩丸
（後ろに立っている礼司に）
...誰なん、お前ら...
お前ら、全員殺されるぞ...！

ノートパソコンの画面では"True"の円がハイライトで光っている。

礼司
（不敵な笑みを浮かべて）
...ようやく本音が出たじゃないですか

15 INT. 都内、高級ホテルの高層階、リビングルーム - LATER

ガウンを羽織った北見がバスルームからリビングのドアを開けて入ってくる。
リビングのソファに座ってハンカチで鼻血を押さえている達也と目が合う北見。
テーブルの上には防毒マスクが二つ置かれている。

達也
（後方の窓を親指で指して）
あ、ガスが残ってるんで窓開けてますよ

いきなりの闖入者に動じた様子を見せず、達也の目を見る北見。達也の背後にはメキシコのレスラーのような覆面を被っている巨躯の市井 豪太（30）が立っている。北見が床に目を移すと、ボディガードが二人倒れて失神している。

北見の背後からリビングを覗き込み、市井と達也の姿を見て「ひっ！」と悲鳴を上げるユウコ。

達也（CONT'D）
お楽しみのところすみませんね。その子たち、
北見さんのモデル事務所の女の子ですか？

ボディガードの息があることを確認し、達也の方に向き直る北見。

北見
（歩きながら）
自分のところのモデルに、手をつけたりはしね
ぇよ...

達也とは対面になるソファの方に歩き、大義そうに腰を下ろす北見

北見（CONT'D）
自分とこの商品に手を出す奴は最低の外道、鬼
畜だよ

視線を交わす達也と北見。達也は北見の言葉に納得するように頷いている。

北見（CONT'D）
この子たちは、帰していいのか？

達也
もちろん、どうぞ

北見
...顔を見られてるぞ？

達也
その子たちだって、今夜あなたと部屋にいたこ
とを他所で言いたくはないでしょう？

北見、ガウン姿の女性の方に向き直り、「帰っていいよ」というように手をひらひらさせる。急いでバスルームに戻っていく女性たち。

達也（CONT'D）
（足を組みながら）
まだ枯れませんか？枯れないってのも、厄介で
すねぇ

北見
...医学が発達したからな

北見はそう言いながら、リビングのあちこちに視線を走らせる

北見（CONT'D）
（部屋の中を見回して）
目的は...？カメラ隠して、撮影でもしてんの
か？

達也
（とぼけて）
どうでしょうか？

北見
どこの組織だ？トップに電話しろ。話して、穏便に終わらせる

達也
あなたが思っているような組織じゃないですよ

北見
金か？

達也
正確に言えば、自分は違いますかね

北見は少し考えた後で立ち上がり、テーブルに置いてあったミネラルウォーターを手に取り、キャップを開けて口に含み、ブクブクうがいをしてそのまま飲み込み、再びソファーに座る。

バスルームで着替えた女たちが髪も乾かさないまま、いそいそとリビングを横切って客室出口に向かって歩いていく。廊下の奥から聞こえる客室扉の閉まる音。

北見はテーブルの上のアメリカンスピリットに手を伸ばし、火をつけたあと深々と吸い込んで煙を天井に吐き出す。テーブルに置いてある白い皿を手前の方に引き寄せる北見。

達也（CONT'D)
スイートも禁煙じゃなかったでしたっけ？

北見
（それには答えず）
...俺が若い頃は、老人は敬うべきものだった

無言で頷きながら北見の話を聞いている達也。

北見（CONT'D)
力のある人の下につき、自分の力を貯めていったんだ。そのためには何でもやったよ。身体も張ったし、恥もたくさんかいた...

北見（CONT'D)
ひとかどの人間になり、いい家に住み、いい車に乗り、いい女を抱く...そのためにお前らが想像もつかないような努力してきたよ...それの何が悪い？

達也は鼻を押さえていたハンカチで鼻を強くかむ。赤く染まるハンカチ。
北見は白い皿にタバコの灰を落としている。

北見（CONT'D)
いまはどうだ？若い連中は？ただただ老人のものを奪おうとしている...嘆かわしいよ...

北見の話を無言で聞いている達也と市井。

北見（CONT'D)
"既得権益"って言葉もなかった...死ぬほどの努力をして、上の世代の力を引き継ぐ...そういう歴史だったんだよ、日本は

達也
...相変わらず饒舌ですね

達也の「相変わらず」という言葉に反応し、怪訝そうな表情になる北見

達也（CONT'D)
(不敵に笑って)
北見さんの世代の努力については否定しませんよ。ただ、その"上の世代の力"、その原資はなんだったんだんですか？って話ですよ

達也の言葉の真意を計ろうとする北見。市井は部屋の窓を再び閉めている。

達也（CONT'D)
あなた方が東京で成功したのは、「ちんぐう会」の資金を融通してもらったから、ですよね？

「ちんぐう会」という単語を聞き、意表を突かれたのか、目が泳ぎ始める北見。タバコの灰がポトリとカーペットに落ちる。それに気付き、動揺を悟られないようにテーブルの上の白い皿を引き寄せ、指先でタバコをとんとんと叩く北見。だが、灰は落ちない。

達也（CONT'D)
あの金が、戦時中にどうやって集められたかご存じでしょう？国民があの時、どういう気持ちを込めて貴金属を供出したか。指輪、髪飾り、火鉢、アルミの弁当箱まで...

達也の顔を凝視する北見、何かに気づいたような表情。

北見
...お前...ちんぐうさんの...有働の、長男か...？

達也
(それに答えずに)
私物化していい金じゃないでしょう？あの資金は

テーブルの上のペットボトルに再び手を伸ばそうとして、動揺したのか、手に持っていたタバコをカーペット落としてしまう北見。

達也（CONT'D)
(微笑んで)
焦げますよ

16 INT. 都内、改修工事中のオフィスビル - LATER

大量の汗をかき、椅子に拘束されたまま、息も絶え絶えに話している岩丸。

岩丸
...今日のことは黙っといたる...誰にも言わん、お前らの生命も保証する。このまま、目隠しをして俺を返せ、な。秘書も生きとるんだろ？言うて聞かすわ、な。だから...

礼司
（遮るように）
今、"あれ"持ってますか？

その言葉を聞き、青ざめながら顎を静かに震わせ始める岩丸。

岩丸
...ええか、これはお前らだけのことやない...誰か知らんけど、まだ引き返せる、ほなけん...

礼司
（不思議そうに）
引き返す？いや、あの資金をごっそりいただこうと思ってるんですけど...

岩丸
...お前...

礼司
（浅野に）
赤外線

真新しい工具箱を持って、礼司のところに歩いてくる浅野。工具箱を床に置き、中から空港のボディチェック時に使うような形状の赤外線センサーを取り出し、岩丸に近付いていく。

浅野は後方から岩丸の目に冷えピタのような形状の粘着性の目隠しを貼り、赤外線センサーで岩丸の足元の靴から上半身に向かってセンサーを当てていくと、右頬のあたりで"ピーッ！ピーッ！"とアラートが鳴り出す。

浅野
...奥歯、みたいっすね

礼司
（笑って）
木は森に隠せ、か

岩丸の口の中に赤外線センサーを突っ込み、閉じれないようにする浅野。口の中にペンライトを当てて、中を覗き込んでいる。

岩丸
（抵抗して）
...はえい！！！はえんあ！！！

浅野
奥歯...かな？間違ったらすいませんね...

そして、ペンチに似た器具で岩丸の右奥歯の義歯を抜く。

岩丸
がぁーーーーーーーーー！！！！

抜いた義歯をコンクリの床に置き、工具箱から取り出したゴムハンマーで義歯を叩く浅野。すると、義歯のコーティングが割れ、中から黒っぽく変色した古い歯が出てくる。

浅野
(驚いて)
...おぉ...ホントだった...！

礼司がスマホをかざすと、古い歯の中に極小のICチップが組み込まれ、点滅しているのが画面に映し出される。

その画面を見て、満足そうに笑みを交わす礼司と浅野。
フロアの後方では高城も親指を立てている。

岩丸
...お前ら...覚悟は出来てんのやろう
な..."会"を敵に回して...ただじゃ済まんぞ

礼司
(少し笑って)
...覚悟がなかったら

岩丸の方に近づき、再びその両肩に手を置く礼司。

礼司 (CONT'D)
国会議員の先生を拉致って、歯を抜いたりしま
せんよ

肩に置かれた手の威圧感から後ろを振り返ることも出来ず、目に冷えピタを貼られたまま、ただ小さく震える岩丸。

17 INT. 都内、高級ホテルの高層階、リビングルーム - LATER

ソファに座ったまま、達也を凝視している北見。

北見
...海外で死んだって聞いたが...

達也
こうして、なんとか生きてますよ。死ぬ前にや
ることがあるんでね。（市井に）赤外線

達也の後ろに立っていた市井がズボンの後ろポケットから赤外線センサーを取り出し、北見の顔に当てると、眉間の老人性イボのところで音が鳴る。
市井がイボに手を伸ばそうとすると、北見がその腕をバシっと掴む。

指示を仰ぐように達也の方を見る市井。

北見
考え直した方がいい...親父にも弟にも、迷惑がかかる...

達也
もう十分、迷惑かけてるんで

北見
久米さんが動くぞ...後藤んとこが動き出したら...

達也
（市井に）
取っていいよ

市井
わかりました

市井が北見の手を跳ねのけ、額のイボを指先でちぎる。北見の眉間から微かに血が流れていく。
その血を拭うこともなく、達也を睨み付ける北見。

北見
後悔するぞ...

潰れたイボを達也に渡す市井。達也がそのイボの膜を開けると、中からは古い変色した歯が出てくる。満足そうな笑みを浮かべ、持っていたハンカチでその歯をくるみ、レザーコートのポケットにしまう達也。

達也
（立ち上がりながら）
後悔ねぇ...まぁ俺は一回死んだ身なんで

達也を睨みつけている北見。市井はテーブルの上にあった北見のものと思われるスマホを手に取り、無抵抗の北見の指に押し付けて指紋認証でロック解除をしている。

達也（CONT'D）
もう一回死んだら、考えてみますよ

ソファから立ち上がる達也。市井は北見のスマホを操作して暗証番号をリセットしている。

達也（CONT'D）
明日の会合は欠席してください。こちらから連絡は入れておくので...あ、これ（歯をかざして）がないと会合に出られないんでしたっけ？

北見
...殺さんのか？

達也
（それに答えずに）
久しぶりにお会いできて良かったです

レザーコートのポケットから再びモンスターボールのようなものを取り出し、リビングのテーブルに置いて出ていく達也と市井。

部屋に残されたまま、静かにガウンの袖で額の血を拭い、ボールからガスが勢いよく吹き出し始めるのを眺める北見。

北見
...ふん

廊下の奥の方で客室扉が閉まる音が聞こえる。

18 EXT./INT. 徳島県某市、久米酒店 - SUNRISE

商店街の一角に建つ老舗の酒屋。白漆喰塗りの酒蔵と歴史を感じさせる日本家屋が隣接した立派な店構え。
酒屋の隣には小さな日本庭園を挟んで、料亭「くめ」が建っている。

酒屋の店内では久米 誉士夫（86）がレジ横のカウンターで店の電話を受けている。

久米
上棟式とか、最近珍しいんちゃうん？施主さん、こっちの人え？...ふうん、じゃあ清酒二本、熨斗付けて用意しとくけん、中村さんな、はい、いつもありがとさん、はい

ボールペンの先を舐めながら、大学ノートに文字を記入していく久米。

携帯電話の着信音が鳴り、ポケットからガラケーを取り出す久米。
画面には「森本孝治」と表示されている。

久米 (CONT'D)
(ノートを書きながら電話に出て)
はい...うん、孝ちゃんも早いな。ん？岩丸さんと...北見さんも？二人が休むや珍しいな。インフル？東京流行っとるん？ほなしゃあないな、こっちでインフルうつされたら、じいさんたち全滅してまうけんな（笑って）はい、ほな後で、はい

電話を切り、ノートへの記入が終わったのか、ペンをカウンターに置く久米。
顔を上げ、時計を確認すると、椅子から降りて日本酒の棚の方に歩き出す。

久米 (CONT'D)
(独り言で)
...清酒二本、清酒二本、と

19 INT. 都内、NPO法人"ボーンズ・ステップ"、ダイニングキッチン - MORNING

薬物依存症からの回復をサポートするNPO法人、"ボーンズ・ステップ"。

ダイニングキッチンの壁には「新歓パーティー」と書かれた手作りのウェルカムボードが貼られている。
テーブルの上にはホットプレートが三つ並べられており、上下ジャージとエプロン姿の礼司と高城が、お好み焼きパーティーの準備をしている。
礼司は秤で小麦粉と水を計量し、高城は大きなアクビをしながら、ボウル内の材料を泡立て器でかき回している。

礼司
（笑って）
さすがに眠いな

高城
礼司さんがタフすぎるんですよ...パーティー、何時からでしたっけ？

礼司
11時だよ。まだ時間はある。ゆっくりやろう

高城
（ボウル内の材料をかき混ぜながら）
これ、なんでもうかき混ぜるんですか？

礼司
先に生地を作って寝かしておいた方がさ、モチっとなるんだよ

高城
（あまり興味なさそうに）
...そんなもんですかね

礼司
ショートメールは？送った？

高城
はい、さっき岩丸と北見のスマホから、向こうの幹事の人間に

礼司
そっか、浅野さんは？

高城
達也さんとは合流済みで、銀行が開くのを待って、貸金庫に向かう予定です....寝過ごさなければ、ですけど

礼司
（笑って）
やりそうだな...あ、もう紅生姜も刻んじゃおうか？

高城
はーい

包丁を手にしたものの、もう眠気の限界とばかりに大きなあくびをする高城。

20 EXT. 都内、高級住宅街 - MORNING

現代的な高級住宅が立ち並ぶ住宅街を一人で歩いている達也。
昨夜、北見のボディガードに殴られたせいか、顔が少し腫れている。

立ち止まり、レザーコートの内ポケットから名刺を取り出す。

名刺には

「株式会社 名東アセットマネジメント
代表取締役社長　富永 啓嗣」

と印字されており、空きスペースには「渋谷区松濤◯-◯-◯」と手書きで書かれた住所が書いてある。

その番地を確認して、住所プレートを見ながら歩く達也。

BEGIN FLASHBACK：2年前

21 INT. 都内、NPO法人"ボーンズ・ステップ"、回復寮、和室 - SUNSET

カーテンで閉め切られた薄暗い和室の六畳間の隅に座っている達也（32）。
部屋の壁には「今日一日　止め続けよう」「辛い時は仲間と過ごそう」「認める 信じる 闘わない」と書かれた紙が貼ってある。

達也は力のない目線を漂わせながら、富永 啓嗣（56）がちゃぶ台に置いた名刺にボールペンで何か書き込んでいるのをぼんやりと見ている。

富永
(ペンを走らせながら)
...おとうさんの人生を奪ったのは、久米さんだよ。ずっと、普通じゃなかったでしょ？

ぼんやりとした表情のまま富永の話を聞いている達也。

富永 (CONT'D)
あれ、久米さんにクスリ漬けにされてたんだよ。「ちんぐうさん、ちんぐうさん」って祭り上げるフリしてさぁ...それはたっちゃんも知ってたでしょ？

目の焦点が合っていないまま、少しだけ顔を上げる達也。

富永 (CONT'D)
(達也に名刺を渡しながら)
たっちゃんには、復讐する権利があると思うよ

まだぼんやりとした表情のまま、差し出された名刺を受け取る達也。
名刺には「渋谷区松濤◯-◯-◯」と住所が書かれている。

END FLASHBACK：

22　　INT. 徳島県某市、料亭「くめ」、廊下 - DAY

料亭の大広間に通じる長い廊下に、老人が10人ほど並んでいる。

皆、質の良さそうな衣服や高級時計を身につけており、成金とは異なった洗練された富裕層の雰囲気を醸し出している。

列の先頭の方には空港で使うようなセキュリティゲートのようなものが設置されており、老人がゲート内で立ち止まると、「ピーッ」と音が鳴り、ゲート横の椅子に座っている森本 孝治（32）が大広間に進むように促している。

森本
はい、どうぞー。お進みくださいー

老人たちは皆、親しい顔見知りらしく、世間話をしたり、森本に声をかけたりして、和やかな雰囲気で列に並んでいる。

老人A
（森本に）
おかあさんの調子はどんなで？副作用はいけるん？

森本
（笑顔で）
はい、おかげさんで。最近の抗がん剤の進歩はすごいんやなあ

対照的に誰とも会話せず、つまらなそうな顔で列に並んでいる富永 啓嗣（58）が、参加者の顔ぶれを確認している。

その時、なごやかに談笑していた老人たちの会話がピタリと止まり、一斉に後方を振り向く。

後方の廊下の曲がり角から、車椅子に乗った有働 義純（65）と、それを押している有働 謙也（29）の姿が現れる。

義純は首を傾げて目は前方の一点を見つめたまま、表情もまったく動かない。

両耳にイヤホンを差し込み、音楽を聴きながら車椅子を押している謙也の髪は部分的に抜け落ち、顔面には昔の裂傷と思われる多数の傷痕が残っている。

その後ろには微笑を浮かべた久米が付き従っている。

久米
ちんぐうさん、着いたけん、先に通してたげて

列に並んでいた老人たちが無言で道を開け、義純を乗せた車椅子が通路を通っていく。誰にも挨拶をせず、車椅子を押して進んでいく謙也。イヤホンからはクラシック音楽の音が漏れている。

義純と謙也を見て、静かに眼鏡を上げる富永。

BEGIN FLASHBACK：2年前

23 INT. 都内、NPO法人"ボーンズ・ステップ"、回復寮、和室 - SUNSET

部屋の中を見回して、何かを探している富永。

富永
...紙、あるかな？あったあった

部屋に落ちていた広告チラシをちゃぶ台に置き、ちんぐう会の組織図を書いていく富岡。チラシの裏紙に久米を頂点とした相関図のようなものが描かれていく。

それをぼんやりと眺めている達也。

BACK TO PRESENT

24 INT. 徳島県某市、料亭「くめ」、大広間 - DAY

大広間で会合が執り行われている。床の間を背に義純が座り、全部で十人ほどの参加者がコの字型のように座って、森本の弾く三味線に合わせて、不思議なメロディの御詠歌を歌っている。印象的な歌詞。

感情をどこかに置いてきたような表情で御詠歌を歌っている富永と、無表情で口さえ動かしていない後藤 一馬（67）以外は、ほぼ80歳前後の男性で占められている。

御詠歌を歌いながら富永が上座の方を見ると、虚ろな表情の義純の口元からは一筋の涎が垂れている。

カメラがひとりひとりの表情を追っていく。

富永（V.O.）
子供の頃に会ってるから、みんな知ってるでしょ？誰でもいい、この中のちんぐう会の二人の歯を奪ったら、さっき名刺に書いたうちの自宅に来てほしい

義純の近くに席を取り、歌いながら大広間のメンバーを見回している久米。

富永（V.O.）（CONT'D)
たっちゃんに渡すものがあるから。
そして、会合の日だったら、僕のアリバイも成立する...娘の紗希には言っておくよ

25 INT. 同、料亭「くめ」、廊下 - CONTINUOUS

縁側に面した廊下の椅子に座り、目の前の小ぶりな日本庭園を眺めながら、イヤホンで音楽を聴いている謙也。

EGIN FLASHBACK：2年前

26 INT. 都内、NPO法人"ボーンズ・ステップ"、回復寮、和室 - SUNSET

富永
"歯"はまた後日に。僕のと合わせて三人分集まれば、会合の時に”意見書”が提出できるから...

富永はおもむろにメガネを外し、指を左目の眼窩に突っ込み、義眼を取り外して達也の目の前に掲げる。

富永 (CONT'D)
...有働家の、たっちゃんちの呪縛も解けると思うよ

目の焦点が戻り、富永の義眼を見る達也の目に光が宿り始める。

BACK TO PRESENT

27 EXT. 都内、高級住宅街、富永邸前 - LATER

高級住宅街の一角にある豪邸の前で立ち止まり、家を見上げる達也。

富永 (V.O.)
兄も殺されたし、心底疲れた...もう、僕も解放されたい...

番地を確認して、インターホン横にあるキーパッドに番号を打ち込むと、外扉が解錠される音が鳴る。その扉を開けて、敷地内に入っていく達也。

28 INT. 同、富永邸、エントランス - CONTINUOUS

８畳ほどの広いエントランス。大理石の床や照明器具などから、相当の資産家の邸宅だということが分かる。エントランスを抜けて家の中に入っていく達也。

達也
...おじゃましまーす...

まったく生活感がないリビングを抜けて、人の気配が感じられない家の中を進み、二階に上って居室のドアを次々に開けていく達也。

その時、三階でガタガタっと音がして、階上に注意を向ける達也。
階段を上り、音がしたと思われる居室のドアを開けると、ヨガウェアを着てイヤフォンをした富永 紗季（30）がデスク上のディスプレイを見ながら一心不乱にズンバを踊っている。

激しいリズムに乗せて、恍惚の表情で踊っている紗季を見て、声をかけるべきかドアを閉めるべきか迷っていた達也だが、意を決して紗季に近づき、肩をとんと叩く。

紗季
（振り返り）
ギャアァァァァァーーーーー！！！！！！！

尻餅をつき、頭をデスクにぶつける紗季。その衝撃でデスクの上のディスプレイが倒れ、連鎖的に本やドリンクボトルなどさまざまなものが倒れていく。

倒れたドリンクボトルから水が床に落ちてるのを見て、慌てて拭くものを探している紗希。

達也
...ピタゴラなんとかみたいだな

紗希
（少しキレながら）
うっさいわね！...タオルタオル...タオルタオル！...あっ！！！

さんざん部屋の中を動き回った挙句、自分の首にタオルをかけてあったことに気づき、床を拭き始める紗希。手伝うか迷いながらその様子を見ている達也。

紗希（CONT'D）
ったくもう...ピンポンくらい押してよ！あとなんでこんなに早いんですか？私まだ...

達也
（無視して）
...何か...お父さんから預かってない？

紗希
あ、ありますよ！

床を拭いていた手を一旦止めて、デスクの引き出しを開けて、達也に大きなジップロックを手渡す紗希。

紗希（CONT'D）
はい、これ

ジップロックの中には、手垢で汚れた古い大学ノートが入っている。
訝しそうにジップロックを開け、大学ノートをペラペラとめくり、あるページで手を止める達也。

達也
（驚きの表情で）
...おいおいおいおい...マジかよ...！？

紗希
（達也の顔をまじまじと見て驚き）
えええええええ？？？？？！！！！！

いきなりの紗希の大声に少し驚いた表情の達也。

紗希（CONT'D）
...もしかして...有働のたっちゃん？？！！

達也
（呆れて）
...逆に誰だと思ってたんだよ...

紗希
（信じられないものを見るように）
...寺の裏山で、根性比べで、生きたセミ食ったよね？？？！！！

静寂。

29 INT. 徳島県某市、料亭「くめ」、大広間 - DAY

参加者の前には料理を載せた脚付膳が並べられ、老人たちはお酒を飲みながら談笑している。三人ほどの仲居が老人たちの席を回ってお酌をしている。

無言で料理を口に運んでいる富永と後藤。
上座に座っていた義純の姿はもう無く、久米は隣の老人と談笑しながらも酒には手をつけず、参加者たちを見回している。

床の間から離れた席では、老人たちがこそこそと話している。

老人A
ちんぐうさんも、もう難しいだろなぁ...謙也くんも大変じゃわ

老人B
まぁもともと、お飾りみたいなもんやけん

30 INT. 徳島県某市、有働家、ダイニングキッチン - CONTINUOUS

15畳ほどのダイニングキッチン。食器棚やテーブル、椅子など、古いながらも高価なものと想像されるデザインや質感。だが、食器棚のガラス戸は割れていたり、壁紙が剥がれていたりして、全体的に荒れた印象の室内。

テーブルに置かれたスピーカーからは誰の趣味なのか、マーラーの交響曲第1番が流れている。

介護用エプロンをかけた義純は車椅子に座り、謙也がお椀からスプーンでお粥を義純の口に運んでいる。

老人A（V.O.）
あの家も、いままでいろいろあったもんなぁ

老人B（V.O.）
なんだかんだ、いまは謙ちゃんと静かに過ごして、ええ余生なんちゃう

義純は目は前方の一点を見つめたまま首を傾げ、時折、食べこぼしながら、表情を変えずに咀嚼している。謙也の右目は失明しているのか、白く濁っている。

謙也
(スプーンを義純に差し出して)
はい、あーん

音楽に耳を傾けながら、献身的に食事介助をしている謙也。
無表情のまま、スプーンで口に入れられたお粥を咀嚼している義純。

31 INT. 徳島県某市、料亭「くめ」、大広間 - DAY

昼食が終わり、参加者の会話が続いてる。

久米
(手をパンパンと叩いて)
はーい、ほな今日は提案事項もないし、終わりにしましょう。ようけお酒飲んだ人もおるけど、このあと帰れるで？(笑って)
ほな皆さん、また次回で。おつかれさまでした

よっこらしょっと立ち上がり、談笑しながら帰り支度をする参加者の老人たち。
無言で立ち上がる富永と後藤。

32 EXT./INT. 都内、霞ヶ関、路上に駐車したアルファード - DAY

パーキングメーター付きの駐車スペースに停めてある岩丸のアルファード。
車内に陽が差し込み、後部座席に座っている岩丸の顔を照らしている。眩しそうに手で遮ろうとするが、烏の鳴き声が聞こえてきて起き上がる。
車内を見回すと、隣では男性秘書が大きないびきをかいている。

右手に違和感を覚え、手を上げてみると市販の鎮痛剤が手のひらにマスキングテープで固定されている。
昨夜のことを思い出し、怒りに震え始める岩丸。その怒りを隣で寝ている男性秘書にぶつける。

岩丸
...こんのボケが！

寝ている男性秘書の頬を思いっきり殴打する岩丸。

33 INT. 徳島県某市、久米酒店 - DAY

酒屋の店内では久米 誉士夫（85）がレジ横のカウンターで指を舐めて紙をめくりながら伝票整理をしている。
年季の入った算盤をパチパチ弾きながら、大学ノートに数字を記入していく久米。

カウンターの横に置いたガラケーから着信音が大音量で流れ始める。
発信元に「公衆電話」と表示されているのを確認してから電話に出る久米。

久米
はい...おぉ、岩丸さん...生きてた？

手に持っていたボールペンをカウンターに置く久米。

久米 (CONT'D)
(ため息をついて)
うん、ほうほう、さっき北見さんからも電話あ
ってなぁ...

カウンターの椅子から立ち上がり、しっかりとした足取りで店内奥の冷蔵庫の方に向かって歩いていく久米。

久米 (CONT'D)
ちんぐうさんのとこの、達也くんやって...ち
んぐうさんもなぁ、せっかくいま落ち着いて、
謙ちゃんと静かに過ごっしょったのになあ

冷蔵庫裏の貯蔵庫の重そうなドアを開け、中に入っていく久米。

久米 (CONT'D)
また騒がしぃになるなあ

34 INT. 同、貯蔵庫 - CONTINUOUS

冷蔵庫裏の貯蔵庫の中で在庫の確認をしながら電話をしている久米。貯蔵庫の棚の中を歩く久米の顔が天井のオレンジ色のライトに照らされて、交互に明るくなったり暗くなったりしている。

久米
うん、東京の会員さんとこにはみんな連絡回し
たけん...ああ、ほうほう、後藤さんのとこで
もう動いてもろうて、ほうほう、こういうんは
早めに芽を摘まなあかんけんなぁ

久米 (CONT'D)
うん、竹と一緒よ、どんどん生えてくる前に

立ち止まった久米の顔が棚の影にかかり、まったく表情が見えなくなる

久米 (CONT'D)
根ごと枯らさんとなぁ

35 INT. 都内、NPO法人"ボーンズ・ステップ"、ダイニングキッチン - DAY

お好み焼きパーティーが終わったのか、礼司と高城が、キッチンのシンク前に並び、ホットプレートや食器を洗ったりしている。

その時、カウンターに置いてあった礼司のスマホの着信音が鳴る。エプロンで軽く手を拭き、スマホを手に取って画面を確認する礼司。

礼司
（笑って）
...浅野さんだよ

高城
（笑って）
絶対寝坊しましたよねー

応答ボタンを押すとコミュニケーションアプリのLIVE通話画面が立ち上がり、顔が変形して血まみれの浅野の顔が映し出される。

浅野の周りには目出し帽を被り、黒Tシャツに迷彩パンツを履いた屈強な男たちが5人ほど映っている。何人かの腕からは和柄やトライバルの彫り物がのぞいている。

冷静さを装い、無表情で画面を見る礼司。異変を察知して礼司に近づいてきた高城が画面を覗き込み、苦渋の表情を浮かべる。

浅野
（早口で）
...ごめんミスった！"歯"に発信機が！...

言いかけたところでスタンガンを撃たれたのか、浅野のうめき声が響く。

覆面の男A（V.O.）
余計なこと言ってんじゃねぇーーー！

浅野が映っていた画面に覆面の男が大写しで入ってくる。反射的にこちらのスマホのカメラをオフにする礼司。画面に映っている覆面の口元には酷薄そうな笑みが浮かんでいる。

覆面の男A
おい、なにカメラオフってんだ？顔出せや。つうか誰だよお前？達也って奴の友達？なんかいろいろやってくれてんじゃん

礼司
（平静を装って）
ちょっと落ち着きましょうか？

覆面の男A
落ち着くぅーーー？

再びスタンガンを撃たれたのか、浅野が絶叫する

浅野
（苦しそうに）
がぁーーーーー！！！

舌打ちする礼司。額に汗の玉が浮かんでいる。

覆面の男A
さぁ、落ち着いたぁーー？？

サイコパス全開の覆面の男に対し、努めて平静さを装う礼司。

礼司
（それを横目で見て）
交渉しませんか？

覆面の男A
（それには答えずに）
どこまで調べて仕掛けてきてんの？ちょっと甘くね？どっかケツついてんの？

礼司
それも会った時でよくないですか？

覆面の男A
会う？会うかー？俺たちにぃーーーー？？？？
全員狩っちゃうようーーーー？？？？

画面に映った覆面の男の顔越しに、再び浅野の絶叫が聞こえてくる。

礼司
...いま、どこですか？

覆面の男A
...さぁ？また電話するわ。達也くん？によろしくぅ！じゃあばいばいきーん！！ハハハハハ！！

アプリの通話が切れる。スマホを持ったまま立ちすくみ、礼司がゴリっと奥歯を噛み締める音がダイニングキッチンに響く。悲痛な表情を浮かべている高城。

礼司
（高城に）
...達也は、今、どこか分かる？

36 EXT./INT. 徳島県某市、山間部、林道 - DAY

林道の砂利道を走っている軽トラック。運転席には小柄な久米が座って運転しており、助手席には大柄な中年の大男、久米 直人（55）が乗っている。
直人は子供のようにニコニコしながら車窓の風景を眺めている。

37 EXT. 同、山間部 - LATER

林道の途中で停車し、車から降りてくると久米と直人。
直人が軽トラックの荷台から、年季の入った背負子を取り出して地面に置く。
軽量アルミフレームとナイロン素材で作られた背負子の底部分には、擦り切れた古い座布団が縛られ固定されている。

久米がその座布団部分に腰を下ろすと、直人がショルダーハーネスに腕を通して背負子に座った久米ごと背負って立ち上がる。

直人
ふんっ！

鼻歌を歌いながら、久米を背負い、獣道のような細い山道を登っていく直人。

暫く登ると山の頂上近くの斜面にコンクリートの擁壁と境界フェンスが現れる。ゲートに設置された小さなカメラを直人が覗き込むと、虹彩認証により、重そうな扉がガラガラと自動で開いていく。

ゲートの中には、野球場ほどの畑が広がっており、さまざまな品種の植物が几帳面に区分けされて植えられている。

直人は背負子を地面に下ろしたあと、奥の方を指差し、久米に行っていいか尋ねる。笑顔で頷き、許可を出す久米。

背負子からゆっくり立ち上がった久米は区分けされた畑の畝の間を歩きながら、薬草らしき植物の成長具合をチェックしている。

久米が畑の中心部に近付き、ある区画に目をやると、たわわに実った数十本のケシの実（ケシ坊主）が風にゆらゆらと揺れている。

畑の奥の方では直人が一心不乱に蝶々を追いかけている。

38 EXT. 徳島県某市、有働家、自宅庭園 - DAY

広大な日本庭園。四季折々の木々が植えられ、広い池には錦鯉が優雅に泳いでいる。庭園に張り巡らされたバリアフリー用の舗装通路を、義純を車椅子に乗せて謙也がゆっくり押している。

片耳にワイヤレスイヤホンを差し込み、音楽を聴きながら車椅子を押している謙也。

イヤホンからはマーラーの交響曲第2番が流れている。

飛んできた蝿が義純の頬に止まるが、義純は表情を変えないまま口元から涎を垂らしている。それに気づき、手で蝿を払う謙也。

庭園内には三人ほどの庭師がおり、樹木の手入れをしている。だが、彼らの注意は義純と謙也に向かっており、その視線に気づいた謙也が軽く目礼をすると庭師たちも会釈をして返す。

スマホの着信音が鳴り、ポケットから取り出したスマホの応答ボタンを押し、耳にあてる謙也。

謙也
...はい

電話の内容を聞いて、足を止める謙也。口元に微かな笑みが浮かぶ。

スマホの通話を切り、再び車椅子を押して、裏門に向かって進む謙也。

裏門の近くで剪定作業をしていた庭師に声をかける。

謙也（CONT'D)
ちょっと、外を歩いてきます

庭師は軽く一礼をして作業に戻り、謙也は車椅子を押して瓦葺の裏門を出ていく。

39 EXT. 同、有働家近く、住宅街 - DAY

昔ながらの屋敷が立ち並ぶ住宅街の一直線の坂を登っていく車椅子。
住宅街に人の気配はまったくない。

額に少し汗を浮かべながら、坂の頂上まで上り切り、片耳に差していたイヤホンを抜き、呼吸を整える謙也。

呆けた表情の義純の耳元に口を近づけ、ささやく謙也。

謙也
...あんたのかわいい長男が...達也が、東京でちんぐう会の"歯"を狩り始めたらしいで...

義純が表情をまったく変えないのを確認し、車椅子の握り手をそっと離す謙也。

車椅子の車輪がゆっくり回り始め、下り坂を進みながら徐々に速度を増していく。

その様子を無表情で眺める謙也。さらに速度を増していく車椅子。

カラカラカラカラ！と音を立てて回転を早めていく車椅子の車輪。

前方には石垣と漆喰で固められた屋敷塀が迫ってくる。

壁に激突する！と思われた瞬間、スタントマンのように車椅子から飛び降りて地面を転げ回り、衝突を回避する義純。

車椅子は石垣に衝突して倒れ、車輪がカラカラ音を立てている。

静寂。

地面に倒れていた義純が、はぁぁぁぁーーーーーーと深いため息をつき、服についた枯葉を手で払いながら立ち上がり、坂の上の謙也を睨む。

義純
（少し非難するように）
...びっくしたぁーーー...

それを見て、軽く鼻で笑う謙也

謙也
ボケとらんやんけ

「極東ライジング」

第一話　「陽はまた昇る」　完